

衛研第3-37号  
平成28年12月14日

感染症発生動向調査事業  
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。  
なお、今週は下記の内容を含んでいます。

記

1. 今週の県内情報
2. 注目すべき疾患（感染性胃腸炎）
3. 今週の注目される定点把握対象疾患の推移（グラフ）
4. インフルエンザ流行情報
5. 今週の全数把握対象疾患の報告数、累計
6. 結核の届出状況（月報）
7. 今週の定点把握対象疾患の報告患者数、定点当たり報告数
8. 全国及び関東情報
9. 今週の流行状況

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当  
電話 0493-59-9325  
FAX 0493-59-9613  
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

## 感染症患者発生情報（週報）

## 埼玉県内情報 平成 28 年 第 49 週（平成 28 年 12 月 5 日～平成 28 年 12 月 11 日）

## 今週の注目される疾患

図は次ページ以降に掲載

全数把握対象疾患では、一類及び二類感染症（結核を除く）の届出はなかった。三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症 2 人の届出があった。四類感染症は、レジオネラ症 1 人の届出があった。五類感染症は、後天性免疫不全症候群 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 5 人、梅毒 3 人、播種性クリプトコックス症 1 人の届出があった。

定点把握対象疾患では、**感染性胃腸炎**(26.73 30.89 : **図 1,2**)の定点当たり報告数は、前週より増加し、過去 4 年のうち大きな流行を示した平成 24,25 (2012,2013) 年の同時期より多い。保健所別では、全保健所管内から報告があり、川口(46.56)、熊谷(43.78)、さいたま市(41.59)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、最も多いのは 5 歳で次いで 4 歳であった。**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**(3.39 3.43 : **図 3**)の定点当たり報告数は、前週と同水準であり多い状況にある。保健所別では、全保健所管内から報告があり、春日部(6.67 9.67)保健所管内で大きく増加し、熊谷(6.33)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、6 か月未満を除く全ての階級から報告があった。**咽頭結膜熱**(0.36 0.42 : **図 4**)の定点当たり報告数は、前週よりわずかに増加した。保健所別では、12 保健所管内から報告があり、川口(1.13)、春日部(1.00)、幸手(1.00)保健所管内からの報告が多い。**流行性耳下腺炎**(1.21 0.91)の定点当たり報告数は、前週より減少したが、依然多い状況が続いている。保健所別では、14 保健所管内から報告があり、朝霞(2.43)、狭山(2.41)保健所管内からの報告が多い。**インフルエンザ**(2.73 3.86 : **図 5,6**)の定点当たり報告数は、前週より増加した。眼科定点報告対象疾患では、**流行性角結膜炎** 23 人の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、**マイコプラズマ肺炎** 17 人、**インフルエンザ(入院)** 2 人の報告があった。

## &lt;全数把握対象疾患の患者情報&gt;

一類感染症 報告なし

二類感染症 報告なし（結核を除く）

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2 人（類型 患者 2 人、血清型 O157 2 人）

四類感染症 レジオネラ症 1 人（病型 肺炎型）

五類感染症 後天性免疫不全症候群 1 人（病型 AIDS）

侵襲性肺炎球菌感染症 5 人

梅毒 3 人（病型 早期顕症 期 3 人）

播種性クリプトコックス症 1 人

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。

衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613

e-mail: [p5349952@pref.saitama.lg.jp](mailto:p5349952@pref.saitama.lg.jp) URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>) で御覧になれます。

## 《注目すべき疾患：感染性胃腸炎》

図1 感染性胃腸炎 第49週の定点当たり報告数は、前週より増加し、大きく流行した2012年(平成24年)のピークを上回った。

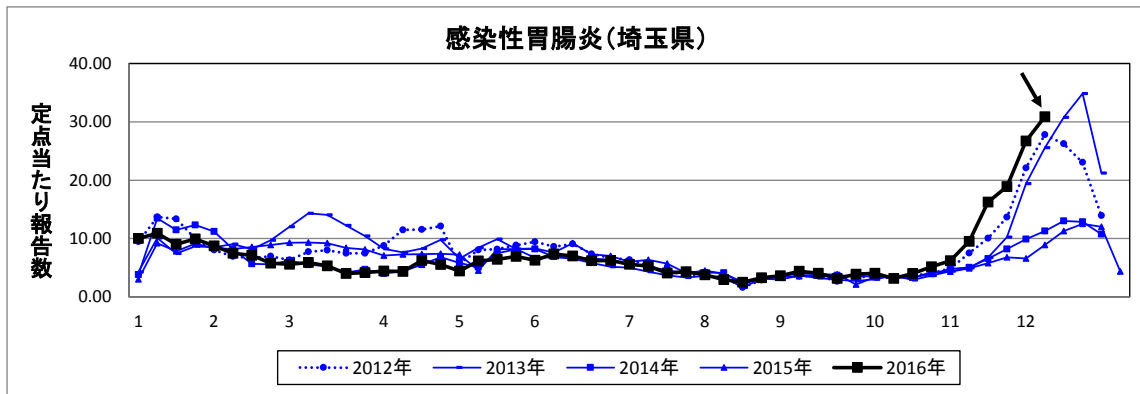
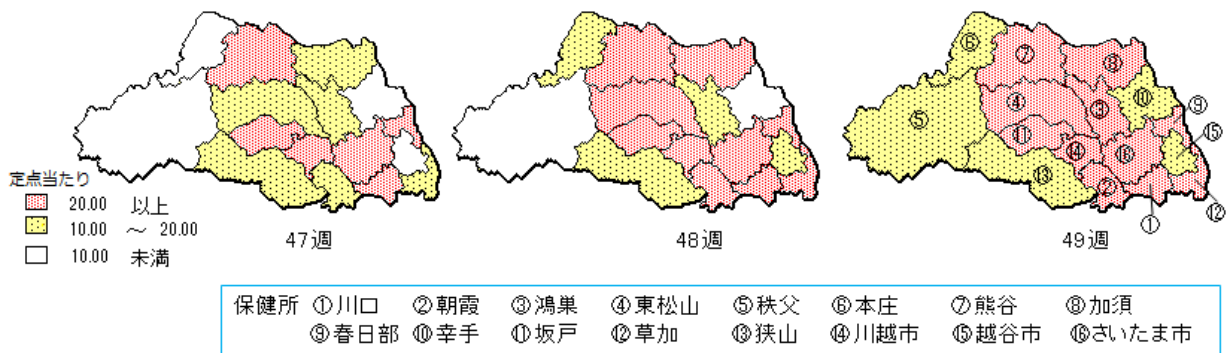


図2 感染性胃腸炎(保健所別) 第49週の定点当たり報告数は県全域で10.00を上回った。



## ＜今週の注目される定点把握対象疾患の推移＞

図3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

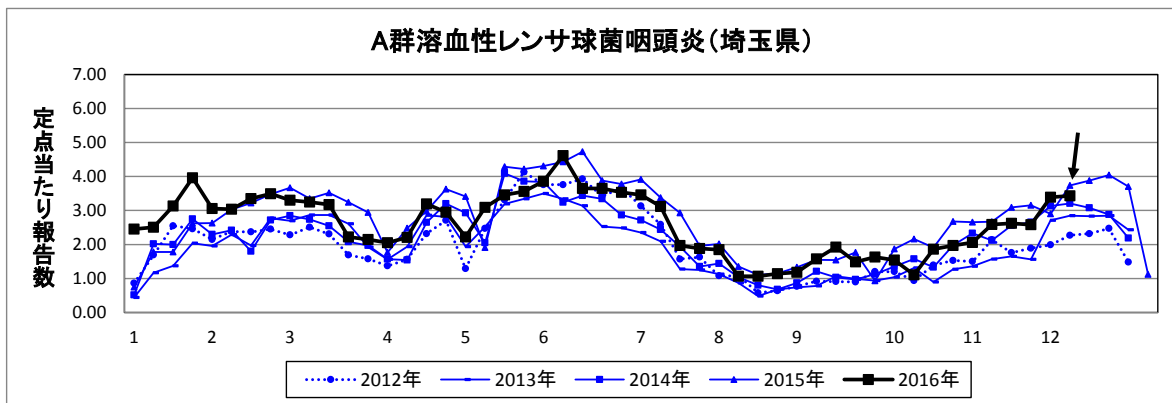
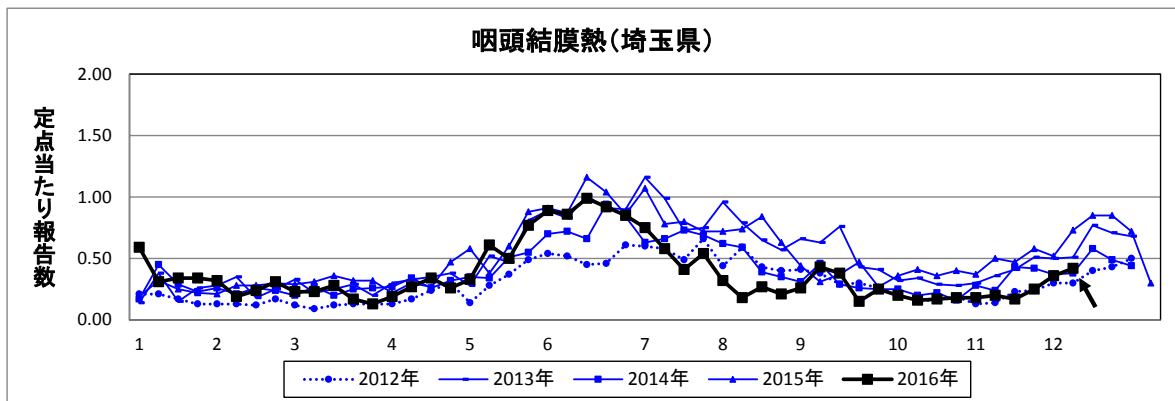


図4 咽頭結膜熱



## インフルエンザ流行情報

2016年第49週のインフルエンザの定点当たり報告数(2.73 3.86)は前週より増加した(図5)。保健所別では、全保健所管内から報告があり、春日部(1.30 4.40)保健所管内で大きく増加し、幸手(6.21)、川口(4.96)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では5-9歳が25.5%、10-14歳が23.4%、0-4歳が12.1%を占めている(図6)。

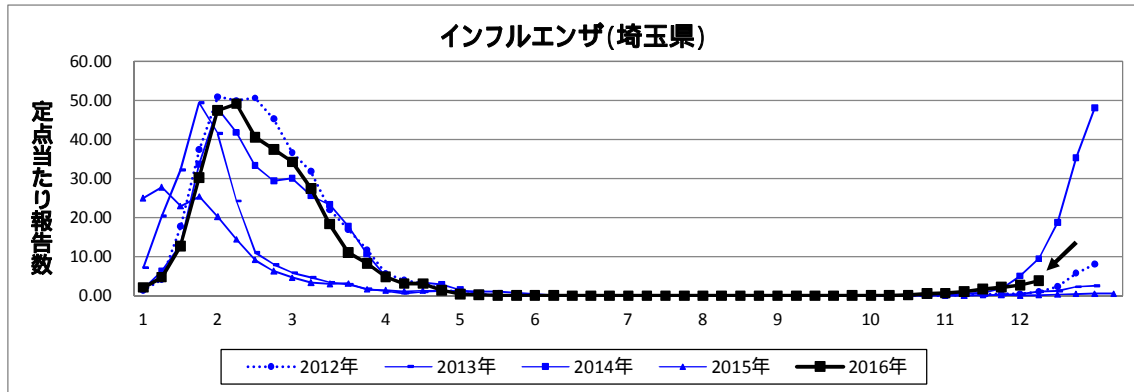


図5 インフルエンザ 定点当たり報告数の推移(2012年~2016年)

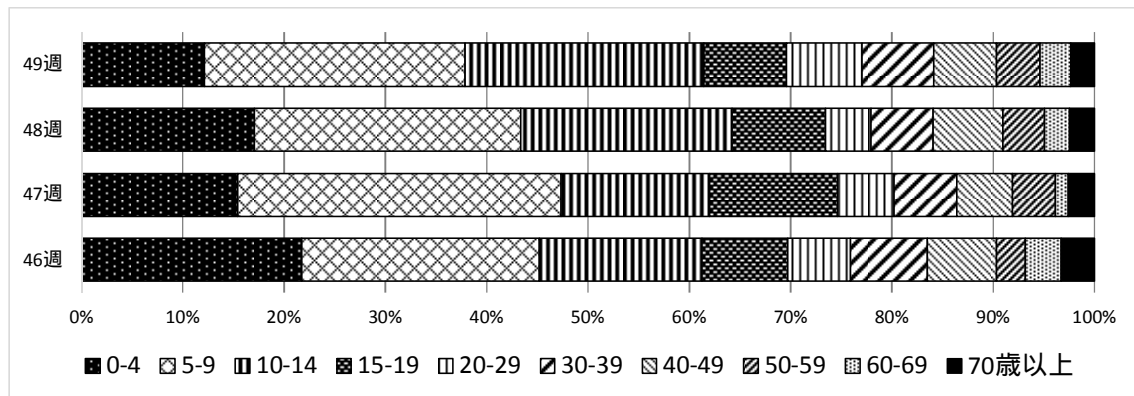


図6 インフルエンザ 年齢階級別報告数の割合(第46週~49週)

第46週(11月14日~11月20日)以降の4週間に、病原体定点で採取された検体からのインフルエンザウイルスの検出は42件で、全てA香港型(AH3)であった(表1)。

表1. 第46~49週に採取された検体からのインフルエンザウイルス検出数

型	46w	47w	48	49w	4週の合計
AH1pdm09	-	-	-	-	-
AH3	9	15	15	3	42
Bビクトリア系統	-	-	-	-	-
B山形系統	-	-	-	-	-

(-:0)

感染症発生状況(全数把握対象疾患)  
(第49週)

(2016年12月13日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
<b>一類感染症</b>					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
<b>二類感染症</b>					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
<b>三類感染症</b>					
コレラ			腸チフス		2
細菌性赤痢		10	パラチフス		
腸管出血性大腸菌感染症	2	173			
<b>四類感染症</b>					
E型肝炎		14	東部ウマ脳炎		
ウエストナイル熱			鳥インフルエンザ(H5N1を除く)		
A型肝炎		6	ニパウイルス感染症		
エキノコックス症			日本紅斑熱		
黄熱			日本脳炎		
オウム病			ハンタウイルス肺症候群		
オムスク出血熱			Bウイルス病		
回帰熱			鼻疽		
キャサナル森林病			ブルセラ症		
Q熱			ベネズエラウマ脳炎		
狂犬病			ヘンドラウイルス感染症		
コクシジオイデス症			発しんチフス		
サル痘			ポツリヌス症		
ジカウイルス感染症			マラリア		
重症熱性血小板減少症候群			野兔病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱	1		レジオネラ症	1	84
つつが虫病	1		レプトスピラ症		
デング熱		12	ロッキー山紅斑熱		
<b>五類感染症</b>					
アメーバ赤痢		44	侵襲性肺炎球菌感染症	5	95
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		7	水痘*		9
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		48	先天性風しん症候群		
急性脳炎		37	梅毒	3	173
クリプトスポリジウム症			播種性クリプトコックス症	1	7
クロイツフェルト・ヤコブ病		5	破傷風		4
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		20	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
後天性免疫不全症候群	1	40	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		7
ジアルジア症		1	風しん		4
侵襲性インフルエンザ菌感染症		9	麻しん		7
侵襲性髄膜炎菌感染症		2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		7
<b>指定感染症</b>	該当疾患は無し				

水痘\*：患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計	5	2		

累計は診断日で集計

\* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

## 結核届出状況(11月分)

11月の届出数は、患者52人、疑似症患者1人、無症状病原体保有者24人の計77人で、2015年12月以降の診断月別届出数が最も少なかったが、前年同月の80人と同水準であった。

表1 診断月別の届出数の推移(2015年11月～2016年11月)

	2015年*		2016年											累計**
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
<b>総計</b>	80	116	129	115	106	102	108	125	127	129	132	115	77	1265
<b>年齢階級</b>														
10歳未満	1	7	2	2	1	1	3	5	3	2	7	3	1	30
10歳代	0	1	1	5	0	1	2	2	1	3	1	2	1	19
20歳代	4	8	4	12	8	17	17	13	19	11	7	11	8	127
30歳代	5	16	7	8	9	8	6	8	9	14	14	7	6	96
40歳代	11	6	13	22	15	7	10	13	14	17	10	10	9	140
50歳代	13	13	14	8	7	10	10	14	14	14	24	17	12	144
60歳代	13	16	26	16	16	10	19	17	16	20	20	17	9	186
70歳代	15	27	32	16	25	25	19	20	14	25	19	25	11	231
80歳以上	18	22	30	26	25	23	22	33	37	23	30	23	20	292
<b>性</b>														
男	43	61	72	71	66	59	59	80	75	73	81	70	43	749
女	37	55	57	44	40	43	49	45	52	56	51	45	34	516
<b>類型</b>														
患者	63	83	70	77	73	83	71	88	87	91	100	71	52	863
感染症死亡者の死体	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
感染症死亡疑い者の死体	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
疑似症患者	0	0	2	0	0	2	3	0	2	1	0	0	1	11
無症状病原体保有者	17	33	56	38	33	17	33	36	38	37	32	43	24	387
<b>病型</b>														
肺結核	48	55	43	58	51	62	54	60	73	74	75	54	36	640
肺結核及びその他の結核	4	5	6	7	7	5	4	3	3	2	5	5	2	49
その他の結核	11	23	22	12	15	16	14	26	11	15	20	13	14	178
疑似症患者	0	0	2	0	0	2	3	0	2	1	0	0	1	11
無症状病原体保有者	17	33	56	38	33	17	33	36	38	37	32	43	24	387

\*:2015年の届出数は暫定値

\*\* :2016年1月からの累積届出数

11月に診断された77人を病型別にみると、肺結核では10歳未満及び10歳代を除く年齢階級から届出があり、80歳以上が11人と最も多く、無症状病原体保有者では10歳代を除く年齢階級から届出があり、50歳代が6人と最も多かった。

表2 年齢階級別病型別の届出数(2016年11月分)

	病 型					総計
	肺結核	肺結核及びその他の結核	その他の結核	疑似症患者	無症状病原体保有者	
<b>総計</b>	36	2	14	1	24	77
<b>年齢階級</b>						
10歳未満	0	0	0	0	1	1
10歳代	0	0	0	1	0	1
20歳代	4	0	1	0	3	8
30歳代	2	0	0	0	4	6
40歳代	4	0	1	0	4	9
50歳代	6	0	0	0	6	12
60歳代	3	0	2	0	4	9
70歳代	6	0	4	0	1	11
80歳以上	11	2	6	0	1	20

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 保健所別 (第49週 平成28年12月5日～平成28年12月11日)

保 健 所	インフルエンザ # 1	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 # 2	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 # 3	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ (入院)
全 県	977	62	67	553	4,973	120	71	15	63	1	7	147	-	23	-	-	17	-	-	2
	3.86	0.39	0.42	3.43	30.89	0.75	0.44	0.09	0.39	0.01	0.04	0.91	-	0.56	-	-	1.70	-	-	0.20
川 口	124	-	18	63	745	2	2	-	9	1	-	14	-	7	*	*	*	*	*	*
	4.96	-	1.13	3.94	46.56	0.13	0.13	-	0.56	0.06	-	0.88	-	1.40	*	*	*	*	*	*
朝 霞	75	14	6	64	459	17	5	1	6	-	-	34	-	1	-	-	-	-	-	-
	3.41	1.00	0.43	4.57	32.79	1.21	0.36	0.07	0.43	-	-	2.43	-	0.25	-	-	-	-	-	-
鴻 巣	63	6	5	37	286	5	3	4	4	-	-	6	-	2	*	*	*	*	*	*
	3.32	0.50	0.42	3.08	23.83	0.42	0.25	0.33	0.33	-	-	0.50	-	0.67	*	*	*	*	*	*
東 松 山	28	-	-	15	178	-	1	-	5	-	-	3	-	-	-	-	1	-	-	-
	3.50	-	-	3.00	35.60	-	0.20	-	1.00	-	-	0.60	-	-	-	-	1.00	-	-	-
秩 父	1	-	-	3	32	-	1	-	-	-	-	-	-	*	*	-	-	-	-	-
	0.20	-	-	1.00	10.67	-	0.33	-	-	-	-	-	-	*	*	-	-	-	-	-
本 庄	25	3	3	10	69	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	3.57	0.75	0.75	2.50	17.25	0.25	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00
熊 谷	28	5	1	57	394	5	5	1	2	-	1	5	-	1	-	-	-	-	-	-
	2.15	0.56	0.11	6.33	43.78	0.56	0.56	0.11	0.22	-	0.11	0.56	-	0.50	-	-	-	-	-	-
加 須	36	-	-	4	129	5	1	-	-	-	-	3	-	1	*	*	*	*	*	*
	3.60	-	-	0.67	21.50	0.83	0.17	-	-	-	-	0.50	-	1.00	*	*	*	*	*	*
春 日 部	44	4	6	58	182	4	2	-	1	-	-	2	-	-	*	*	*	*	*	*
	4.40	0.67	1.00	9.67	30.33	0.67	0.33	-	0.17	-	-	0.33	-	-	*	*	*	*	*	*
幸 手	87	2	9	41	158	6	-	-	2	-	-	9	-	-	-	-	3	-	-	-
	6.21	0.22	1.00	4.56	17.56	0.67	-	-	0.22	-	-	1.00	-	-	-	-	3.00	-	-	-
坂 戸	42	5	1	3	206	3	3	-	1	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-
	4.20	0.83	0.17	0.50	34.33	0.50	0.50	-	0.17	-	0.17	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-
草 加	75	3	1	14	347	4	3	3	10	-	-	4	-	-	*	*	*	*	*	*
	4.41	0.27	0.09	1.27	31.55	0.36	0.27	0.27	0.91	-	-	0.36	-	-	*	*	*	*	*	*
狭 山	89	12	7	44	276	13	8	-	5	-	-	41	-	5	-	-	5	-	-	-
	3.42	0.71	0.41	2.59	16.24	0.76	0.47	-	0.29	-	-	2.41	-	1.00	-	-	5.00	-	-	-
川 越 市	40	-	-	24	256	10	3	1	-	-	2	3	-	-	*	*	*	*	*	*
	3.08	-	-	3.00	32.00	1.25	0.38	0.13	-	-	0.25	0.38	-	-	*	*	*	*	*	*
越 谷 市	51	3	4	24	133	5	3	-	5	-	1	2	-	-	-	-	6	-	-	-
	3.92	0.38	0.50	3.00	16.63	0.63	0.38	-	0.63	-	0.13	0.25	-	-	-	-	6.00	-	-	-
さいたま市	169	5	6	92	1,123	40	27	5	13	-	2	13	-	6	-	-	2	-	-	1
	4.12	0.19	0.22	3.41	41.59	1.48	1.00	0.19	0.48	-	0.07	0.48	-	0.75	-	-	2.00	-	-	1.00

( - : 0.00 )

# 1 鳥インフルエンザを除く

# 2 真菌性を含む

# 3 オウム病を除く

12月 13日 13:00集計

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第49週 平成28年12月5日～平成28年12月11日)

	合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ #1	977	2	5	26	20	24	41	40	36	49	65	59	229	79	72	69	60	42	29	23	7
RSウイルス感染症	62	19	15	15	9	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	67	-	4	17	13	10	9	3	7	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	553	-	4	18	32	30	64	63	63	64	61	39	79	8	28	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	4,973	14	134	417	394	478	603	621	518	343	245	189	457	64	496	-	-	-	-	-	-
水痘	120	1	3	8	5	11	15	13	26	18	7	6	6	-	1	-	-	-	-	-	-
手足口病	71	1	3	24	18	6	10	1	2	-	-	-	3	1	2	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	15	-	-	2	-	3	2	-	1	1	1	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	63	3	23	28	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	7	1	2	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	147	-	1	2	6	14	15	22	18	19	12	14	21	1	2	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	23	-	-	-	1	-	2	-	1	1	1	-	1	-	2	8	2	2	-	-	2
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	17	-	1	8	5	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く



# 全国・関東情報 第 47 週

( 11月21日～11月27日 )

平成28年12月14日

インフルエンザの定点当たり報告数は第34週以降増加が続いており、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は沖縄県(9.09)、栃木県(5.75)、福井県(5.38)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は107例と前週と比較して増加した。都道府県別では30都道府県から報告があり、年齢別では0歳(7例)、1～9歳(17例)、10代(4例)、20代(2例)、30代(1例)、40代(2例)、50代(5例)、60代(11例)、70代(20例)、80歳以上(38例)であった。

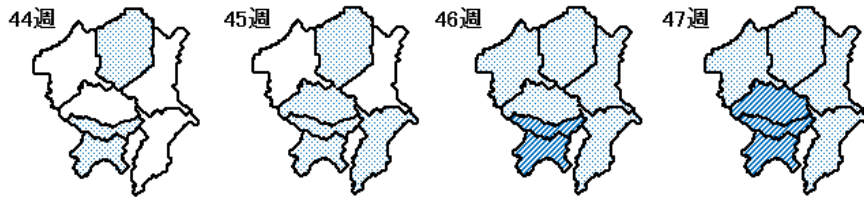
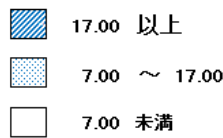
RSウイルス感染症の報告数は3,222例と第41週以降減少が続いている。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約72%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は高知県(1.00)、岩手県(0.93)、島根県(0.74)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は山形県(7.00)、北海道(4.61)、鳥取県(3.74)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は宮城県(32.75)、山形県(23.53)、三重県(20.80)である。水痘の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は北海道(1.26)、鳥取県(1.16)、福井県(0.95)である。手足口病の定点当たり報告数は第44週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は宮崎県(3.22)、鹿児島県(3.09)、熊本県(2.28)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は島根県(1.04)、宮崎県(0.89)、徳島県(0.48)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は富山県(4.17)、新潟県(2.91)、鹿児島県(2.05)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位2位は岐阜県(3.00)、秋田県(2.00)、群馬県(2.00)、富山県(2.00)、石川県(2.00)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は減少した。7府県から8例報告があり、年齢別では0歳(1例)、1～4歳(6例)、5～9歳(1例)であった。

## <関東情報>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、東京都(19.66)、埼玉県(18.91)、神奈川県(17.80)からの報告が多い。

### 感染性胃腸炎



		平成28年 47週								
		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	8,843	2,957	153	437	221	545	353	727	521
	定点当たり	1.79	1.96	1.28	5.75	2.33	2.18	1.64	1.75	1.56
RSウイルス感染症	報告数	3,222	314	30	32	20	58	38	85	51
	定点当たり	1.02	0.33	0.40	0.67	0.34	0.36	0.28	0.32	0.24
咽頭結膜熱	報告数	1,180	272	11	21	32	40	22	110	36
	定点当たり	0.37	0.29	0.15	0.44	0.55	0.25	0.16	0.42	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	6,596	2,032	167	60	147	415	376	529	338
	定点当たり	2.09	2.14	2.23	1.25	2.53	2.58	2.79	2.02	1.61
感染性胃腸炎	報告数	40,607	15,869	787	475	604	3,045	2,070	5,151	3,737
	定点当たり	12.85	16.72	10.49	9.90	10.41	18.91	15.33	19.66	17.80
水痘	報告数	1,883	566	36	22	29	128	61	138	152
	定点当たり	0.60	0.60	0.48	0.46	0.50	0.80	0.45	0.53	0.72
手足口病	報告数	2,212	604	45	23	26	112	134	154	110
	定点当たり	0.70	0.64	0.60	0.48	0.45	0.70	0.99	0.59	0.52
伝染性紅斑	報告数	403	114	12	2	13	21	18	34	14
	定点当たり	0.13	0.12	0.16	0.04	0.22	0.13	0.13	0.13	0.07
突発性発しん	報告数	1,342	407	15	12	27	79	60	112	102
	定点当たり	0.42	0.43	0.20	0.25	0.47	0.49	0.44	0.43	0.49
百日咳	報告数	39	8	-	-	-	-	4	3	1
	定点当たり	0.01	0.01	-	-	-	-	0.03	0.01	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	412	77	3	4	13	10	5	29	13
	定点当たり	0.13	0.08	0.04	0.08	0.22	0.06	0.04	0.11	0.06
流行性耳下腺炎	報告数	3,110	648	18	6	30	164	67	157	206
	定点当たり	0.98	0.68	0.24	0.13	0.52	1.02	0.50	0.60	0.98
急性出血性結膜炎	報告数	5	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数	489	213	4	13	23	22	27	23	101
	定点当たり	0.71	1.04	0.24	1.08	1.64	0.54	0.82	0.61	2.06
細菌性髄膜炎 #2	報告数	8	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	報告数	28	3	-	2	-	-	-	1	-
	定点当たり	0.06	0.04	-	0.29	-	-	-	0.04	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	463	85	6	-	16	15	11	28	9
	定点当たり	0.98	1.05	0.46	-	2.00	1.50	1.22	1.12	1.00
クラミジア肺炎 #3	報告数	15	7	-	1	-	3	-	3	-
	定点当たり	0.03	0.09	-	0.14	-	0.30	-	0.12	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	8	2	-	-	1	1	-	-	-
	定点当たり	0.02	0.02	-	-	0.13	0.10	-	-	-

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)

感染症発生動向調査 2016年

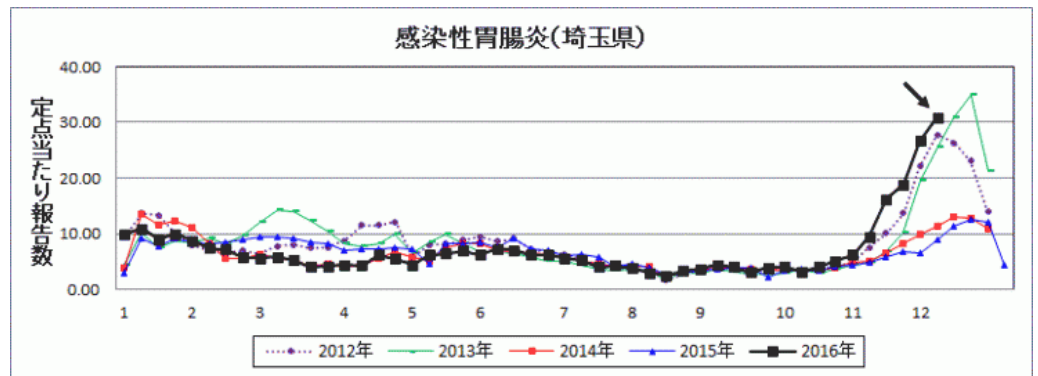
- [感染症の流行状況 2016年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第9週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第10週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第11週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第12週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第13週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第14週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第15週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第16週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第17週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第18週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第19週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第20週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第21週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第22週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第23週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第24週](#)

感染症の流行状況 2016年 第49週

2016年第49週（平成28年12月5日～12月11日）の要点 平成28年12月14日

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、前週より増加し、多い状況が続いています。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
<a href="#">インフルエンザ</a>	↑	★	<a href="#">伝染性紅斑(りんご病)</a>	↓	★
<a href="#">RSウイルス感染症</a>	→	★★	<a href="#">突発性発しん</a>	→	★
<a href="#">咽頭結膜熱(プール熱)</a>	→	★	<a href="#">百日咳</a>	→	★
<a href="#">A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</a>	→	★★★	<a href="#">ヘルパンギーナ</a>	→	★
<a href="#">感染性胃腸炎</a>	↑	★★★	<a href="#">流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)</a>	↓	★★
<a href="#">水痘(みずぼうそう)</a>	→	★★	<a href="#">急性出血性結膜炎</a>	→	★
<a href="#">手足口病</a>	→	★★	<a href="#">流行性角結膜炎</a>	→	★

\*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。\*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) \*3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバタン